

書籍案内

方正友好交流の会が編集した本と会員及び関係著書をご紹介します。

- * 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」－ハルビン市方正県物語－』
方正友好交流の会 編著

日本人公墓建立までの経緯などを王鳳山と奥村正雄が、中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇さんの半生を大副敬二郎が、方正県住民の家に住み込み、全力で稲作指導に邁進し「日中友好水稲王」といわれた藤原長作さんの一生と、敗戦後八路軍に入り帰国後、日中友好運動や麻山事件の犠牲者の公墓建立で活躍された金丸千尋さんの半生を大類善啓が執筆。また「方正友好交流の会」を成立以前から支えた人々の座談会を牧野史敬が司会進した記録などが収録されている。定価 1500 円。(事務局に残部あり)

- * 『中国残留日本人という経験 「満洲」と日本を問い続けて』 蘭 信三 編

本書は、中国残留日本人の多彩な経験を通して、現代の日本を問い、「満洲」とは何だったのかを総括する。いわば中国残留日本人研究の総決算ともいえる 600 頁を超える大部の書だ。会員の南誠さんが『想像される「残留日本人」－国民をめぐる包摂と排除』を、同じく猪股祐介さんが『満洲農業移民から中国残留日本人へ』というタイトルで論文を書いている。

勉誠出版(株) 電話 03-5215-9021 定価 8000 円(税別)

- * 『風雪に耐えて咲く寒梅のように 二つの祖国の狭間に生きて』
可児力一郎 著

著者は、旧満州へ入植してから 17 年ほどの中国での残留生活を経て帰国するまでの記憶を綴ろうと、慣れない日本語と苦闘しながら、2003 年本書を書き上げた。著者宛てに直接申し込んでいただきたい。〒399-5303 長野県木曾郡木曾町田立 1 2 2 3 可児力一郎 (かに・りきいちろう) 定価 1700 円。電話 0573-75-4755 F A X 0573-75-4557

- * 『満州開拓民悲史一碑が、土塊が、語りかける』 高橋健男 著

満州開拓民に何が起こったのか? 中国残留孤児はなぜ生まれたのか? 国策に翻弄され、満州開拓の果てに斃れた受難の民への鎮魂を込めて、方正に集結した避難民、佐渡開拓民跡事件の殉難者たちを初めて総体的に検証する。方正を知るためには格好の書。希望者は書店あるいは直接発行元へ。批評社 03-3813-6344 定価 3000 円(税別)

《報告》

ありがとうございました

前号の会報 9 号発行後、カンパをお寄せいただいた方、また新たに会員になられた方々のお名前を以下に記して感謝の意をお伝えします。ありがとうございました。(敬称略、受

付けた順に記載しました。2010年4月19日現在)

大崎やま子 窪田かつよ 貞平浩 篠崎務 丹藤佳紀 森田恭子 青木孝 皆川純磨
山田陽子 宮腰直子 阿久津国秀 岩増弘三 武吉次朗 鈴木敏夫 小畑正子 小池健治
斉藤正 小関光二 瀧亀久男 望月迪洋 山内良子 吉岡稔 山下くに 宮下春男 山田
弘子(越谷市) 中島紀子 篠田欽次 辻庸子 秋葉二郎 塩谷建 山下美子 甘利真美 田
中實 星浩一 樽沢仁 宮下元嗣 金子彰 石原政子 魚崎宏 丹保洋子 福久一枝 芹
沢昇雄 土川克広 杉田春恵 高木涼子 網代正孝 石田和久 木村美智子 馬場永子
小栗勝則 大島満吉 伊原忠 津久井洋 鶴沢弘 伊佐昭紀 井出孫六 大場武男 岸陽
子 伊藤州一 小島正憲 榎本晴夫 奥村勉 高嶋正文 名井佳子 野中西夫 財団法人
兵庫県海外同友会 師岡武男 白西紳一郎 金丸千尋 南哲夫 高橋増江 遠藤勇 高橋
健男 吉川雄作 潘穎楠 田中ケイ子 吉安蓉子 水城可 今村隆一 小木謙助 中丸巖
伊藤健一 崔鳳義 崔岩 齋藤實 古賀勇一 堀江はつ 長谷部照夫 及川康年 照山真
木子 栗原貞子 伊東行子 飯田喜三郎 酒井武史 青柳幸司 石井敏夫 関本嘉明 阿
部慶一 吉原和子 南川久 百崎進 鳥島せい子 可児力一郎 南雲英雄 佐藤千栄子
鈴木俊作 谷口誠 湊谷節子 駒ヶ嶺法子 田村璋 奥村誠 丸野公平 山田寿子 黒岩
満喜 名取敬和 川内カチエ 金子静子 望月信隆 常住三千代 上条八郎 新石侑久
吉川孝人 山田敬三 末広一郎 三上智恵子 村山綾子 竹井成範

<編集後記>

昨年、岩波ホールで上映が始まった『嗚呼 満蒙開拓団』は今でも全国で、主に自主上映会という形で上映され、多くの人たちの感動を呼んでいる。こういう映画を自主的に見ようとする動きがある限り、まだまだ日本も捨てたものではない、と思ってしまう。しかし、そんな考えは甘いのかもしれない。マスメディアがひとたびある論調を張り出すと、人々が一斉になびく風潮は、昔も今もそう変わりがないからだ。その証拠といえば、つい最近まで吹き荒れた検察の小沢潰しと、それに同調するかのような、マスメディアの激しい小沢批判を挙げることができるだろう。

先日もある友人がこんな話をした。台湾が戒厳令下にあった頃「台湾の政治犯を救う会」の有力メンバーであった彼が、かつて新聞記者に、日曜日の集会にぜひ取材をと電話をかけたら、記者が「日曜日だと誰も出席しないよ」と言って嫌がり、取材をしなかったという思い出だ。好きで新聞記者をやるのではなく、給料が高いから新聞社に入るようになってから、記者も本当にダメになったねえと彼は嘆くのだ。

が一方、東京地検を実証的に批判する記事を連載した『週刊朝日』が爆発的に売れたという事実もある。インターネットや投書、ゲリラ的に小冊子を発行するなど、大メディアでなくても出来ることはある。そういう思いでこの会報を発行し続けていきたいと思う。(大類)

《表紙写真撮影・師岡武男》

『星火方正～燎原の火は方正から～』(第10号) 2010年5月10日発行

発行：方正友好交流の会 編集人：大類善啓 Email：ohrui@jcst.or.jp

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6 日本分譲住宅会館 4F

(社)日中科学技術文化センター内 電話：03-3295-0411 FAX：03-3295-0400

郵便振替口座番号 00130-5-426643 加入者名 方正友好交流の会

HP アドレス：<http://www.houmasa.com/>